

# 都立高校における 中途退学未然防止・中途退学者等進路支援事業

～都立高校生の「進路」を支える若者支援NPOのスタッフに訊く～



古賀 和香子さん（認定特定非営利活動法人育て上げネット 若年支援事業部担当課長）

大学の経済学部在籍中に児童養護施設のボランティアをしたことがきっかけで、人を支える仕事に興味を持つ。夜間の専門学校に通って社会福祉士の資格を取得。不登校の子供たちを支援するNPOのボランティアを経て、現在のNPOに就職。

## 支援をつうじて見えてくる高校生の姿

「働くイメージ」を持つことが出来ていない生徒が多いです。その背景には「職業」に関する知識や情報の不足、自分の特性や適性を理解できていないという原因があります。また、生活世界の狭さという課題もあるように思います。

このような生徒に対しては、「自分にはどんなことができるのか」というところから一緒に考えていくようにしています。

これまで、面談をした生徒の中に「自分のやりたいこと」と「自分にできること」の整理ができない生徒がいました。その生徒は部活動を3年間一生懸命に続けるなど、目標に向かってしっかりと取り組む生徒でした。本人が得意にしていることを活かせるような職種と一緒に整理しながら、就きたい職種を絞り、ハローワークの求人を紹介し、学校の先生につなげて3月末に採用を決定することが出来ました。

## 支援者の役割

私たちの役割は、「いろいろな情報を知っていて何でも話せる人」という第三者の立場から、一人一人の生徒に個別に向きあって、その生徒がどんな悩みを抱えているのかを聞き、どんな支援が必要なのかを先生と一緒に考えることではないかと思っています。

## 支援活動をつうじて感じること

進路が決まった生徒が嬉しそうに報告に来てくれた時や、成長した生徒さんを見て先生が喜んでくれた時、この仕事をしてよかったと感じます。高校生はエネルギーがあるから、「やる気」を出した時にはみるみる成長するので、そんな姿を見られるのは嬉しいです。

都立高校において、中途退学する生徒や進路未決定のまま卒業する生徒が5,000人を超えています。この数字は、全都立高校に在籍する高校生（約13万5千人）のうち約4%を占めています。中途退学や進路未決定卒業はニートやフリーター等非正規就労につながることも多く、将来の生活が不安定になってしまうおそれがあります。昨年12月に発表された『東京都長期ビジョン』では、「①都立高校の中途退学者をより一層減少させるため、学校が目標を定めて組織的・計画的に中途退学の防止に取り組む学校づくりを進める」、「②中途退学した生徒や進路が未決定の卒業生に対する『切れ目』のない支援をハローワーク等関係機関と連携して行う」取組を進めることを打ち出しています。

今回は、平成25年度から中途退学未然防止と中途退学者・進路未決定者への取組を進めている若者支援NPOのスタッフに都立高校生への進路支援というテーマでお話を伺いました。

五十嵐 裕紀さん（特定非営利活動法人青少年自立援助センター 学校連携担当）



大学の体育学科に在籍していた時に子供に空手を教えたことがきっかけで、教職を目指す。私立の通信制の高校に勤務し、ひきこもりや不登校など様々な課題を抱えている生徒と出会って、これまでの知識や経験では教員になっても十分な指導や援助ができないと考え、現在のNPOに就職。

## 支援をつうじて見えてくる高校生の姿

自分の気持ちや思いを人にうまく伝えられない生徒が多いように思います。それが対人関係での自信のなさにもつながっていて、進路や学校生活のことを相談すること自体、面倒になってしまって、結果的に将来のことを考えるのを先送りしてしまうようです。

そこで私は、何で悩んでいるのか、何が問題なのか、ということ自分で分かるまで共感していくようにしています。自分で分からない状態のままで無理やり考えさせるようなことを言ってしまうと先に進めなくなってしまいます。アニメでもゲームでもドラマでもいいから、その生徒との接点がある要素を探して、「この人だったら相談できるのでは」という関係をつくってから、アドバイスや助言をするようにしています。

## 支援者の役割

支援が必要な生徒と時間をかけて向き合うことで、学校の先生には話せないことを話せるような関係をつくるということではないかと思っています。

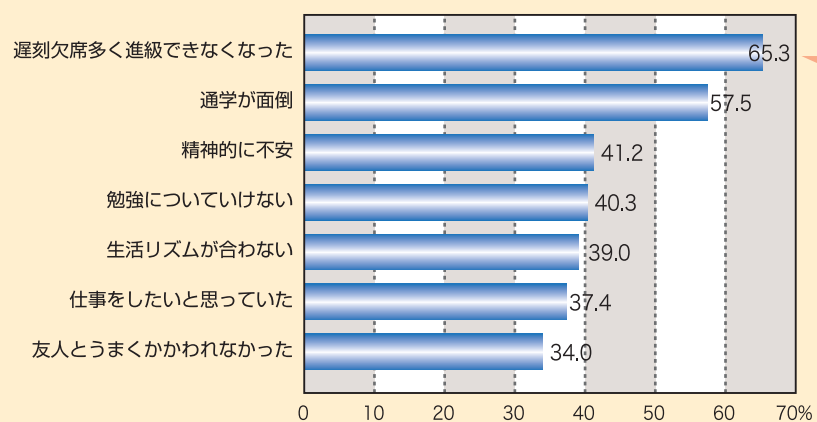
また、学校が相談の機会を設定しても、その場に来られない（来たくない）生徒も多いので、保健室や図書室に居て、なるべく多くの生徒に自分を知ってもらって、話しやすい存在であることをアピールするようにしています。

## 支援活動をつうじて感じること

生徒から御礼を言われるとあらためてやりがいを感じます。「受かったよー」の一言だったりするんですが、「五十嵐さんが来る日を先生から聞いて、その一言を言いたくて待っていた。」とか言われると本当に嬉しいです。

## 都立高校中途退学者等追跡調査（平成24年度実施）から見える 中途退学者の状況

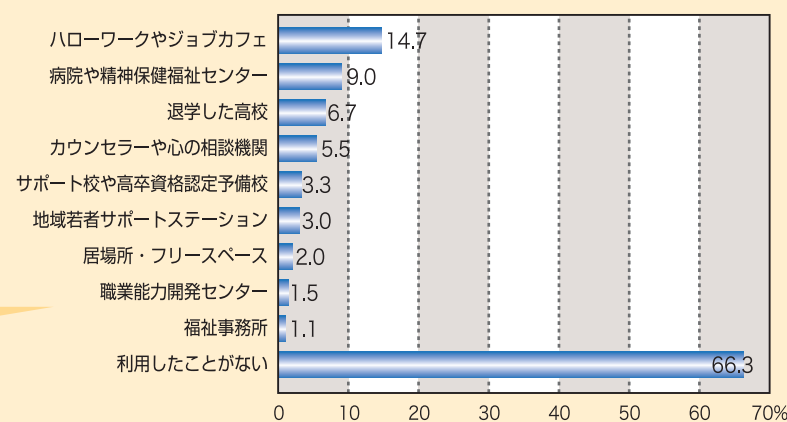
中途退学した理由（上位7つ）（%）



「遅刻や欠席が多い」等、基本的な生活習慣の未確立による退学が多い。その一方で「精神的に不安定」「友人とうまく関われなかった」などメンタル面での課題も多く、中途退学に至る要因は多様である。

全体的に、中途退学後の支援機関の利用が著しく低く、既存の就労や就学に関するサービスが当事者に届いていない、という課題がある。

中途退学後に利用した支援機関等（%）



## 事業を活用している学校からの声

○ 支援スタッフは「よく話を聞いてくれる」「自分のことを信頼してくれている」など生徒たちから評判が大変良いです。学校の進路指導の領域に入らない生徒へアプローチするためには、生徒に向き合ってくれる支援スタッフの存在は非常に有効だと思いました。

○ 時間をかけて生徒との関係づくりをしてくれているので、生徒は愚痴も含めて何でも話しているようで、普段、教員には見せない面を見せているみたいです。

○ 進路が決められない生徒に対して、時間をかけて生徒の特性や長所を引き出すようなアドバイスをしながら、多様な選択肢を提示してくれます。そのことが、生徒が自ら自分の将来を考えるきっかけになっていると思います。

※都立高校中途退学者等追跡調査の詳細は東京都教育委員会のホームページで御覧になれます。東京都教育委員会 → 報道発表資料 → 平成25年度報道発表資料 → 都立高校中途退学者等追跡調査結果の概要について URL → <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr130328c.htm>